

第2章 地域の概況

1 自然的概況

1) 位置

本市の位置図を図 2.1 に示します。

本市は、和歌山県の北東端に位置し、北は大阪府河内長野市、東は奈良県五條市、南及び西は伊都郡かつらぎ町、九度山町、高野町に接しています。和歌山市中心部、大阪市中心部への距離は、直線とともに約 40 km です。本市の中央部には紀の川が東西に流れ、北部は河岸段丘からなる丘陵地、南部は紀伊山地に連なっています。



〔出典〕 橋本市のホームページ

図 2.1 本市の位置図

2) 気候

最寄りの観測地点であるかつらぎ地域気象観測所における降水量及び気温の推移を表 2.1 に、5 カ年平均の月別降水量及び平均気温を図 2.2 に示します。

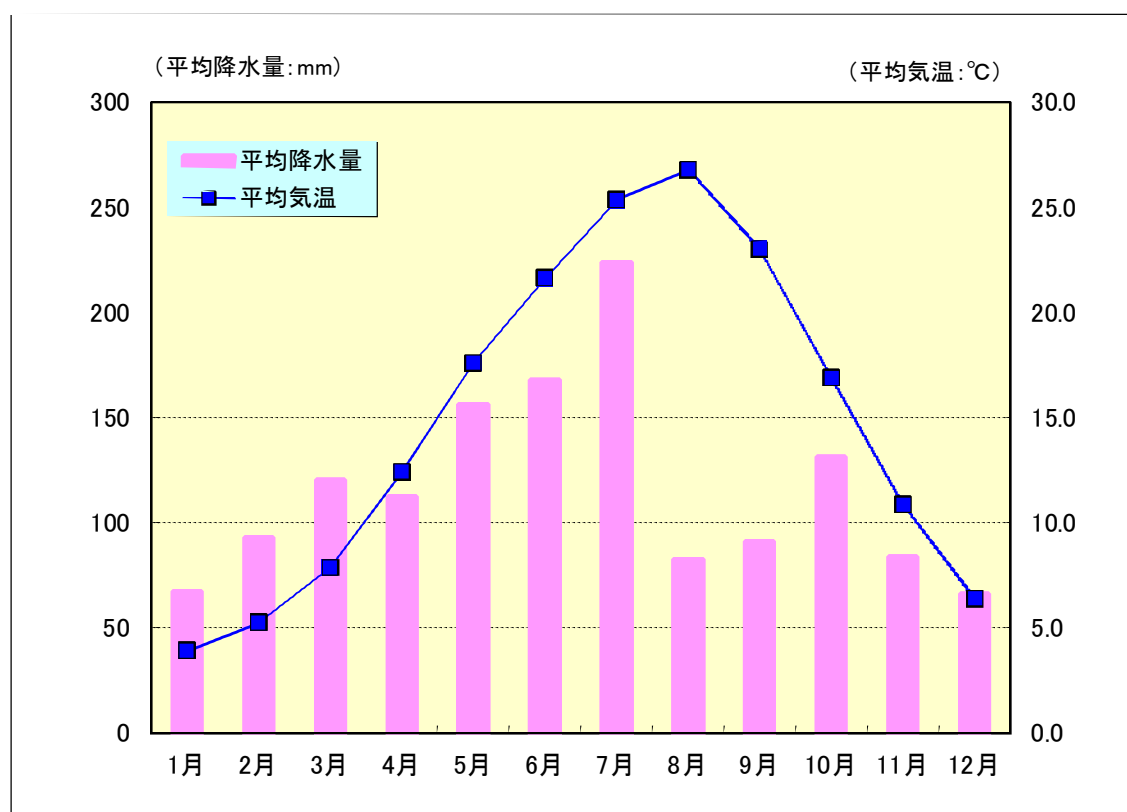
本市は、少雨温暖な瀬戸内気候に属する地域ですが、気温差が大きい内陸性気候の特徴も有している地域です。平均気温は 15℃前後、年間雨量は約 1,400mm となっています。

表 2.1 気象の状況 (5 カ年平均) 【かつらぎ地域気象観測所】

年月	気温(℃)			降水量 (mm)	日照時間 (h)
	平均	最高	最低		
2006	14.7	20.2	10.2	1,429.0	1,873.9
2007	15.1	20.9	10.2	1,191.0	2,128.7
2008	14.6	20.6	10.0	1,278.5	1,865.7
2009	14.8	20.8	9.9	1,438.5	1,838.8
2010	15.0	20.8	10.4	1,651.0	1,848.9
5カ年平均	14.8	20.7	10.1	1,397.6	1,911.2

※地点：かつらぎ地域気象観測所（北緯 34 度 18.6 分、東経 135 度 31.7 分、標高 142m）

〔出典〕気象庁ホームページ



※地点：かつらぎ地域気象観測所（北緯 34 度 18.6 分、東経 135 度 31.7 分、標高 142m）

〔出典〕気象庁ホームページ

図 2.2 気象の状況 (各月 5 カ年平均)

3) 水系

本市には、一級河川である紀の川本川流域と、橋本川流域、山田川流域、田原川流域、嵯峨谷川流域等の支川流域で形成されています。本市にとって母なる川といえる紀の川は、日本最多雨地帯として知られる大台ヶ原にその源を発し、紀伊半島の中部を西流し、和歌山市において紀伊水道に注いでいます。その流域は、大半が山地で占められ、奈良県、和歌山県にまたがる流域面積は 1,750km²、流路延長は 136km となっています。

〔出典〕「橋本市環境基本計画」（平成 20 年 3 月）

4) 植生

本市の植生は、市域北部の丘陵地及び市域南部の山地におけるスギ、ヒノキ、サワラ等の常緑針葉樹林と、市域中央部の水田雑草群落から構成されています。また、市域南部には、一部モチツツジーアカマツ群落が見られるとともに、市全域にはコナラなどの広葉樹林も点在しています。市域全体に占める林野率は、約 60%であり、そのうち人工林が 65%を占めています。

〔出典〕「橋本市環境基本計画」（平成 20 年 3 月）

5) 動物

本市における学術上価値の高い生物として、昭和 40 年代には、紀見峠周辺地区に、ギフチョウ、ナガボシカメムシ、フサヒゲサシガメ、ウラナミアカシジミなど県下で極めて少ないものが生息し、ハッチョウトンボの県下唯一の産地との報告がありましたが、現在では、その数もさらに減少、あるいは絶滅したものと考えられます。

また、昭和 56 年発行の第 2 回自然環境保全基礎調査（環境庁）によると、指標昆虫類であるムカシトンボ、ムカシヤンマ、ハッチョウトンボ、ハルゼミの生息が、絶滅危惧種としてナニワトンボの生息が報告されています。

さらに、淡水魚類では、ニッポンバラタナゴ、アユカケ（カマキリ）、アブラハヤの生息が報告されているほか、哺乳類では、イノシシ、キツネ、タヌキが生息するという情報が得られています。

〔出典〕「橋本市環境基本計画」（平成 20 年 3 月）

2 社会的概況

1) 人口の推移

(1) 行政区域内人口

本市の行政区域内人口等の推移を表 2.2 に示します。

本市の人口は、平成 12 年以降減少しており、平成 22 年で 66,361 人、平成 12 年比で約 4 千人減となっています。また、世帯数は増加を続けており、平成 22 年で 23,468 戸となっています。

表 2.2 行政区域内人口等の推移

	単位	H. 2	H. 7	H. 12	H. 17	H. 22
人口	人	62,156	69,329	70,469	68,529	66,361
世帯数	戸	17,547	20,655	22,164	22,860	23,468

〔出典〕国勢調査（各年 10 月 1 日）

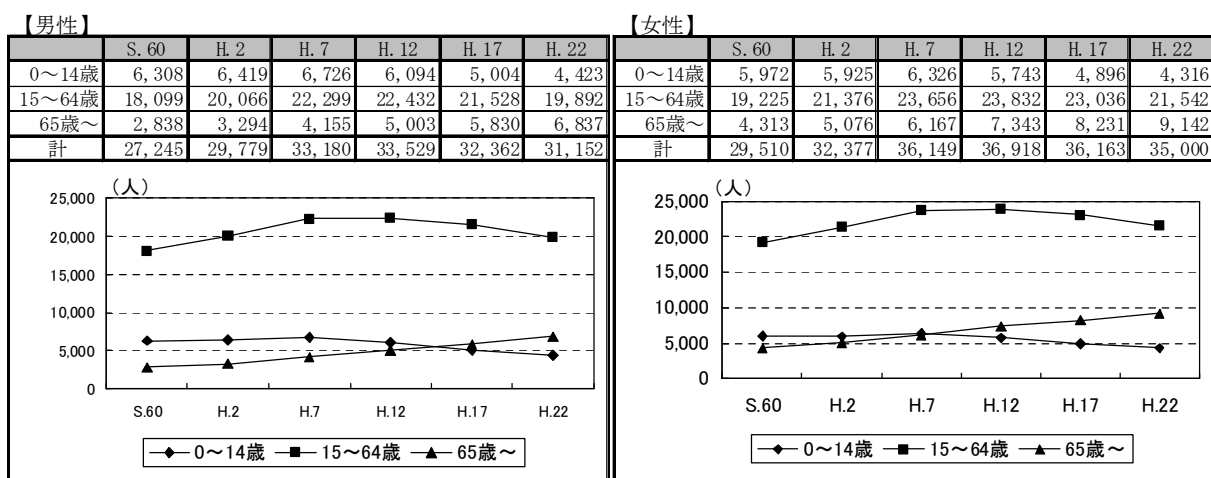
(2) 男女別年齢構成別人口

国勢調査における昭和 60 年から平成 17 年までの男女別年齢構成別人口の推移を図 2.3 に示します。

0～14 歳の年少人口は、男女ともに平成 7 年以降は減少傾向となっており、男性では平成 17 年、女性では平成 12 年にそれぞれ老齢人口が年少人口を上回り、少子高齢化が進んでいます。

15～64 歳の生産年齢人口は、男女ともに平成 12 年以降減少してきています。

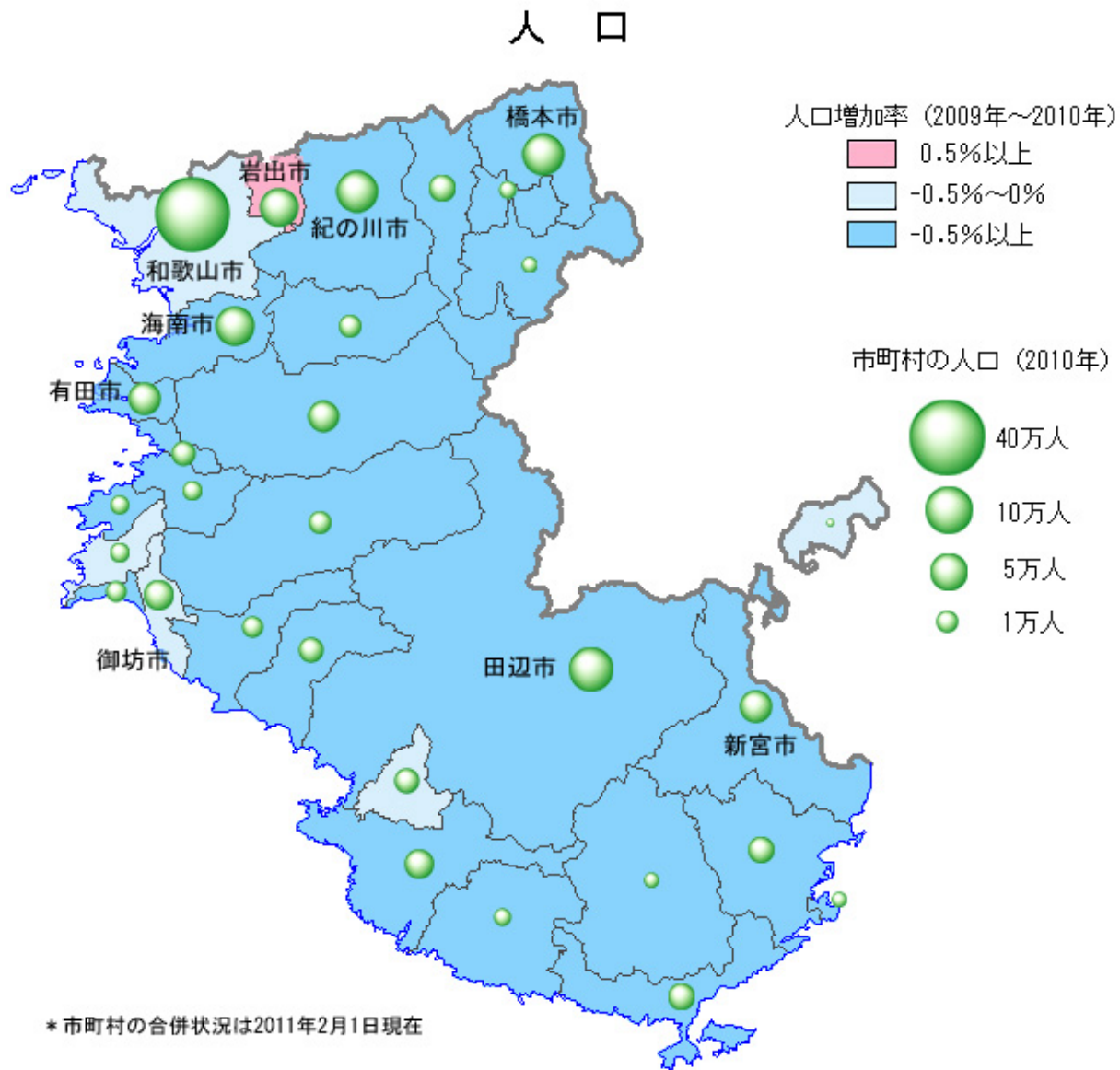
65 歳以上の老齢人口は男女ともに増加を続けており、昭和 60 年に対して平成 17 年では男女ともに約 2 倍の人口となっています。



〔出典〕国勢調査/橋本統計要覧 2008 年度版

図 2.3 男女別年齢構成別人口の推移

和歌山県内の人口動態を図 2.4 に示します。その人口動態をみると、本市は、ほとんどの市町村と同様に減少しているのがわかります。



[出典] 帝国書院ホームページ

図 2.4 和歌山県内の人口動向

2) 産業

国勢調査における平成 17 年の産業別集合人口を表 2.3 及び図 2.5 に示します。

就業人口は、市全体で 31,589 人となっています。就業比率では、「卸売・小売業（17.8%）」、「製造業（16.6%）」、「サービス業（11.9%）」の順に多くなっています。

表 2.3 産業別就業人口（平成 17 年）

	産業分類	就業人口(人)	就業比率(%)
第1次産業	農 業	2,374	7.5
	林 業	31	0.1
	漁 業	4	0.0
第2次産業	鉱 業	5	0.0
	建設業	1,938	6.1
	製造業	5,252	16.6
第3次産業	電気ガス熱供給・水道業	266	0.8
	情報通信業	490	1.6
	運輸業	1,436	4.5
	卸売・小売業	5,613	17.8
	金融保険業	812	2.6
	不動産業	295	0.9
	飲食店・宿泊業	1,200	3.8
	医療・福祉	3,545	11.2
	教育・学習支援業	1,955	6.2
	複合サービス業	534	1.7
	サービス業	3,745	11.9
	公務	1,469	4.7
	分類不能	625	2.0
	合 計	31,589	100.0

〔出典〕国勢調査

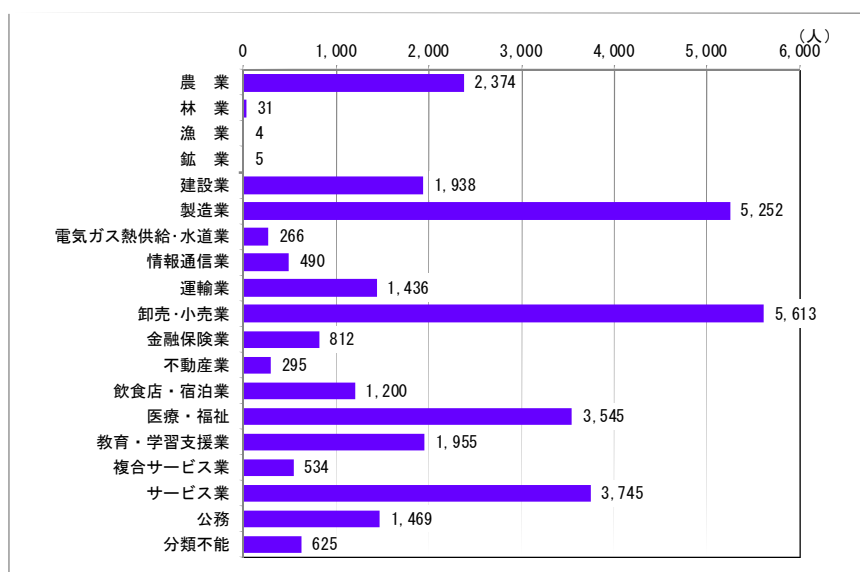
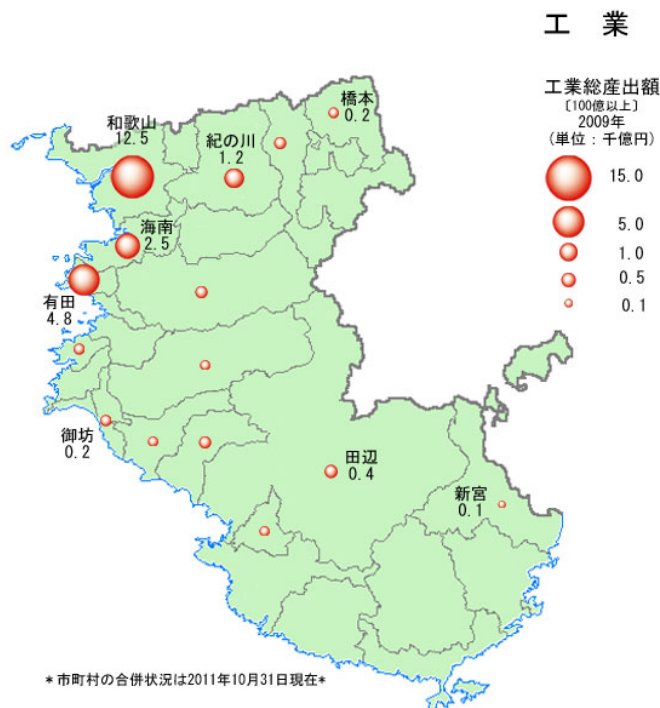
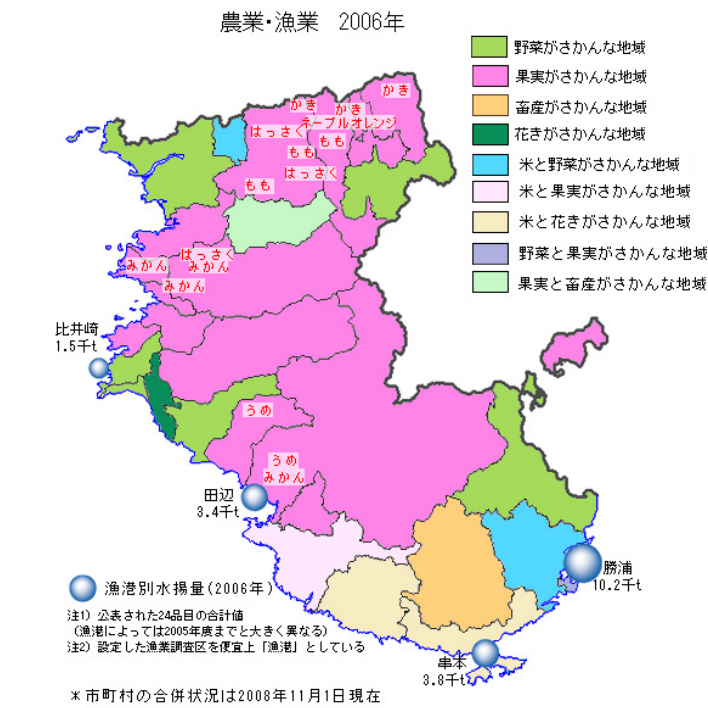


図 2.5 産業別就業人口（平成 17 年）

和歌山県内の農業・漁業及び工業の様子を図 2.6 に示します。本市は、果樹（かき）栽培がさかんな地域です。



〔出典〕 帝国書院ホームページ

図 2.6 和歌山県内の農業・漁業及び工業の状況

3) 交通

交通整備状況を図 2.7 に示します。

鉄道は南海高野線が大阪市と、JR 和歌山線が和歌山市と奈良方面を結び、橋本駅で結節しています。

道路は関西大環状道路の一部を形成する京奈和自動車道「橋本道路」や和歌山市と京都市に連絡する国道 24 号、高野山方面に連絡する 370 号が東西方向に、また、大阪府方面に連絡する国道 371 号が南北方向に通っており、これら国道や県道などが本市の幹線道路となっています。



[出典] 橋本市のホームページ

図 2.7 交通整備状況

4) 土地利用

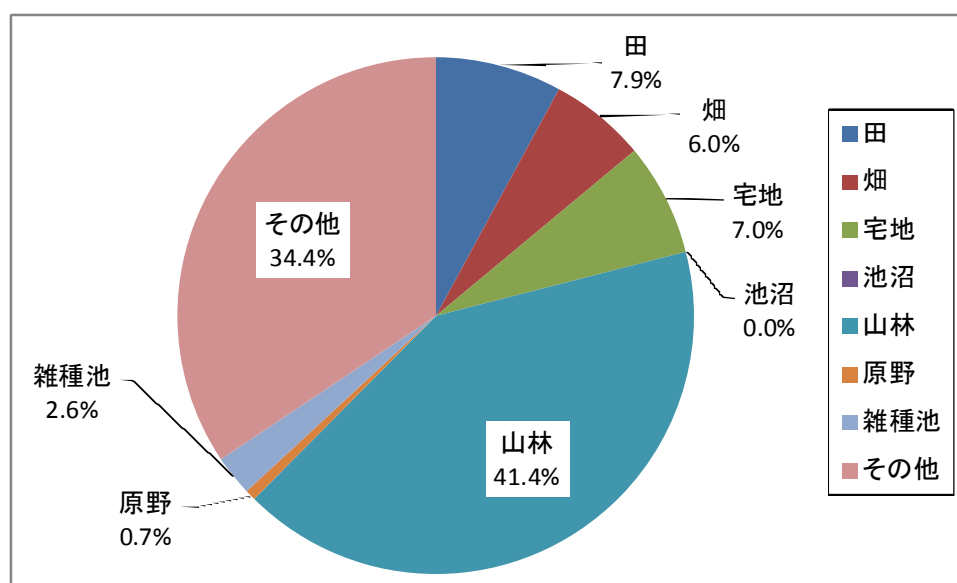
本市の総面積と地目別面積を表 2.4 に、地目別面積比を図 2.8 に示します。

本市は、市の中央部を東西に紀の川が流れ、北部は河岸段丘からなる丘陵地、南部は紀伊山地に連なっています。本市の総面積は 130.31km² であり、市域の 41.4%を山林、田が 7.9%、宅地が 7.0%を占めています。

表 2.4 本市の総面積と地目別面積

単位：km ²								
市総面積	田	畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種池	その他
130.31	10.31	7.86	9.17	0.05	53.90	0.86	3.37	44.79

〔出典〕和歌山県統計年鑑【平成 22 年刊行】



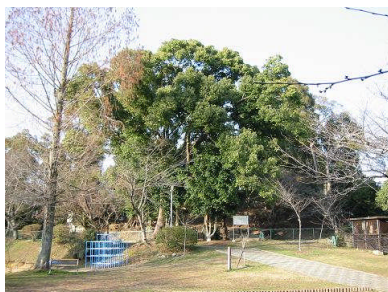
〔出典〕和歌山県統計年鑑【平成 22 年刊行】

図 2.8 地目別面積比

5) 史跡・名勝、文化財

本市の史跡・名勝には、「陵山古墳」（古佐田）、「神野々廃寺塔跡」（神野々）、「名古曽廃寺跡」（名古曽）、「信太神社の樟樹」（高野口町九重）、「玉川峡」（北宿、南宿ほか）があります。

また、文化財には、国宝の「人物画像鏡」、重要文化財の「利生護国寺本堂」や「三彩釉骨蔵器」（通称：奈良三彩の壺）のほか、和歌山県指定文化財の「橋本の舟楽車」、「隅田八幡神社の秋祭」、「嵯峨谷の神踊り」などがあります。



みささぎやまこふん
陵山古墳



名古曽廃寺跡



信太神社の樟樹



玉川峡



利生護国寺



奈良三彩の壺



ふなだんじり
橋本の舟楽車



隅田八幡神社の秋祭



嵯峨谷の神踊り

〔出典〕 橋本市のホームページ